

令和元年度石巻市子どもの未来づくり事業（第Ⅲ期）

「学習指導の改善を図る研修会」

第11回研修会



- 日時 令和2年1月17日（金）9：25～
- 場所 桃生公民館
- 講師 弘前医療福祉大学 小玉 有子教授
- ☆研修Ⅰ 「チーム支援会議の実際」
- ☆研修Ⅱ 「問題行動への対応とコーチング」

第12回研修会



- 日時 令和2年1月22日（水）9：20～
- 場所 桃生公民館
- 講師 早稲田大学大学院 高橋 あつ子教授
- ☆研修Ⅲ 「LDの理解と対応」
- ☆研修Ⅳ 「LD支援（演習）」

【小玉先生の研修のポイント】

- ① チーム支援ができている学校は、問題行動児童生徒への気付きをピックアップするシステムができている学校である。
- ② 「校内支援体制」のシステムを段階に応じて組織する。（詳細は、資料「チーム支援会議の実際」参照）
- ③ チーム支援で決めたことは、必ず行う。1か月やってみて、振り返りを持ち、変えるところは変える。
- ④ 外部資源をよく知っておくことや、初めから相談することも視野に入れる。
- ⑤ 「ティーチング」とは、指導者が相手に対し、知識や問題解決の手法を提供すること。
「コーチング」とは、コーチが対話を通じて相手の中から考えや感情等を引き出すこと。
アセスメントをもとに、2つを使い分ける。（詳細は資料「問題行動への対応とコーチング」参照）
- ⑥ 「コーチング」は、基本1対1で行い、教員（指導者）の価値観を押し付けない。子ども自身に具体的に行動計画を立ててもらう。

【高橋先生の研修のポイント】

- ① 「学習障害」は遅れではなく、偏りである。特定の弱さがあるため、教科間に差が出ることも。
 - ② 「学習障害」は4.5%の出現率。各校の可能性のある児童生徒の数を先生方が認識しておく。
 - ③ 学習障害がもととなり、適切な支援が得られず、二次障害を起こし不登校になっているケースがある。
 - ④ 特別支援教育コーディネーターは、先生方に対し「困難さを感じてもらおう疑似体験」を提供すると理解が得られやすい。（詳細は、資料「学習障害の理解と対応」参照）
校内において、研修時間を設けてほしい。
- ※ 「人はいくらでも学び、成長できる。失敗や恥を恐れず新しいことに挑戦し、成長することに価値をおく。」
＝「成長マインドセット」（キャロル・ドゥエックのことば）

取り組んでいただきたいこと

○第12回の午後の演習では、出席した先生方が、それぞれの校内の先生方に向けた研修について検討しております。LDについて、より多くの先生方に理解していただくためにも、特別支援教育コーディネーターを中心に、校内で研修する時間を確保していただきますようお願いいたします。



「LDについての校内研修をどのようにもつか」について、個人でテーマを決め、同じテーマのグループで検討しました。

その後、他のグループの意見を聞き、個人の計画にアイデアを生かす活動を行いました。



【主な研修テーマ】

- LDの理解
- LDの支援
- 支援計画、指導計画
- 読み書き
- UDL
- 中学校での支援



【受講者の先生方から】 ○第11回 ◇第12回

○午前・午後とも、多くの事例を複数の先生方（チーム）で分析したことで、どこを見るべきかポイントが分かってきたように思ったので、学校での実際の事例に生かしていきたい。5W1Hの重要性も改めて感じることができた。

○生徒の様子をチームで話し合うことで、気づけなかったことに気づけたり、対策が練れるという良い演習になった。

○ティーチングよりコーチング、「自分で考えなさい」「これをやりなさい」という方式は、もはや今の時代には対応できないことを理解しました。昭和の頭で令和の学校には対応できない。

○問題行動をチームで対応する際に、チームをアセスメントすることが必要だと思いました。どんなチームがよいチームなのかを考え、そのチームになるために自分ができること、役割を果たしていきたいと思います。

○私は、日頃学校生活の中で、ティーチングの方がコーチングよりも多く使っていますが、生徒や場面に応じたコーチングを学ぶことも大切だと感じました。

◇「ダーツの実験」が心に残りました。教員として子供たちの未来に大きくかかわっている責任を感じました。学習の方法を理解できるよう指導をしていこうと思いました。

◇講義の中にあつた、「字を見て書く」「言葉を探す」など、実際に経験してみないと分からないことや、ダーツの実験の話から学んだことを明日から改善できることを少しずつ実践していきたいと思います。”昭和”というワードがたくさんありましたが、時代の変化、生徒の実態を大切に、今何が大切で優先かを考えて取り組みたいと思いました。

◇日頃よりLD児がいることを想定した授業づくりを意識していくことが大切だと改めて感じるとともに、全職員がそのような意識をもてるように働きかけたり、雰囲気作りを行ったりしていく必要性を感じた。

◇LDについては、「苦手」ととらえられることが多いかもしれない。これを機にLD児童を確認し、支援策を考えていきたい。疑似体験よかったです。もっと知りたいです。

◇今年度は日常的にLDの子どもたちと接することが多いので、今日の研修は大変参考になりました。特に「弱いところを伸ばさなければならない」という概念は取り払って、その子の「強いところを伸ばす」というところに大変共感しました。その子の将来を考えたときに、必要な学び、学び方を探って実践していきたいと思います。そのためにも、コーディネーターとして先生方に助言できるよう、自分自身が研修を深める必要があると感じました。